

# 平成 26 年度 田名地区住民MM実施結果

## 目 次

1.1 配布・回収状況 .....	1
( 1 ) 調査結果 .....	2

## 1.1 配布・回収状況

### 1) 配布・回収方法および票数

10月1日(水)から4日(土)にポスティングによる直接配布、郵送回収とした。  
配布・回収数は以下のとおりである。

表 1-1 配布・回収数

配布エリア	配布数	回収数	回収率
田名地区MM(全体)	3,000	774	26%
田名地区	2,000	540	27%
田名塩田地区	1,000	229	23%
不明		5	

アンケート回答者の居住地は下表のとおりである。

表 1-2 アンケート回答者の居住地

<b>田名地区</b>	<b>540</b>
田名四ツ谷	80
田名堀之内	108
堀之内団地	4
半在家	20
田名地区・不明	328
<b>田名塩田地区</b>	<b>229</b>
田名塩田1丁目	8
田名塩田2丁目	54
田名塩田3丁目	81
田名塩田4丁目	36
田名塩田・不明	50
<b>不明</b>	<b>5</b>
<b>合計</b>	<b>774</b>

## (1) 調査結果

### 1) 各設問の集計

#### ふだんよく利用する交通手段(複数回答)

ふだん、よく利用する交通手段は、「自動車(自分で運転)」が28%で最も多く、次いで「路線バス」20%、「自転車」15%の順となっている。

参考として、田名地区と相模原市全体の手段分担率を比較すると、田名地区は徒歩や自転車、鉄道の分担率が低く、路線バスの分担率は高い傾向にあるが、自動車(自分で運転と家族が送迎の合計)の分担率は37%であり、市全体とほぼ同じ水準である。

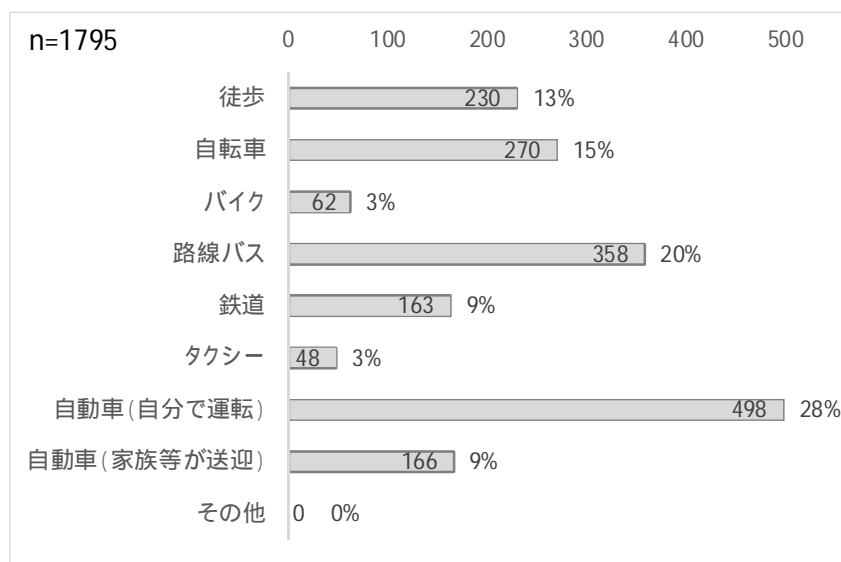


図 1-1 ふだんよく利用する交通手段

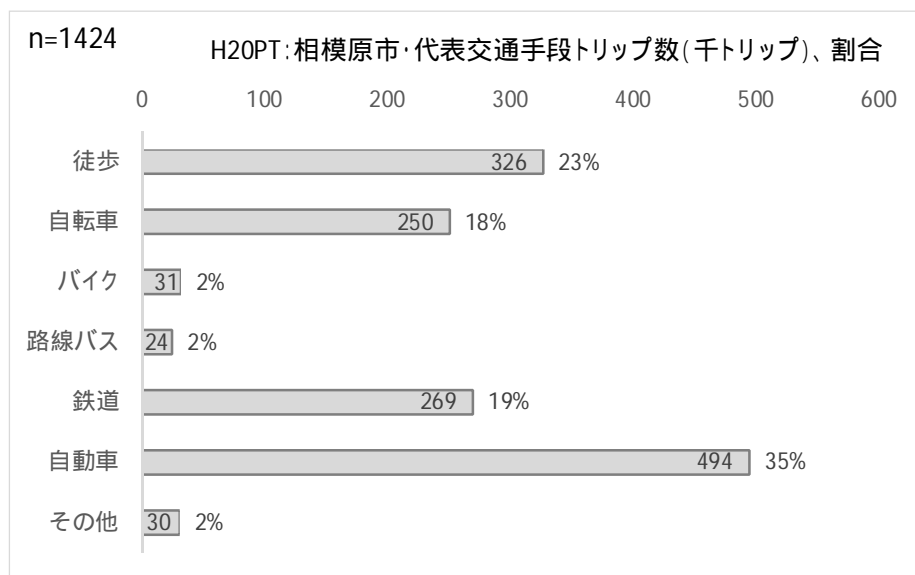


図 1-2 相模原市の代表交通手段分担率

出典) 平成 20 年東京都市圏パーソントリップ調査

地域別にみると、田名地区の方が「徒歩・自転車」、「路線バス」の分担率が高く、逆に田名塩田地区は「自動車」の分担率が高い。

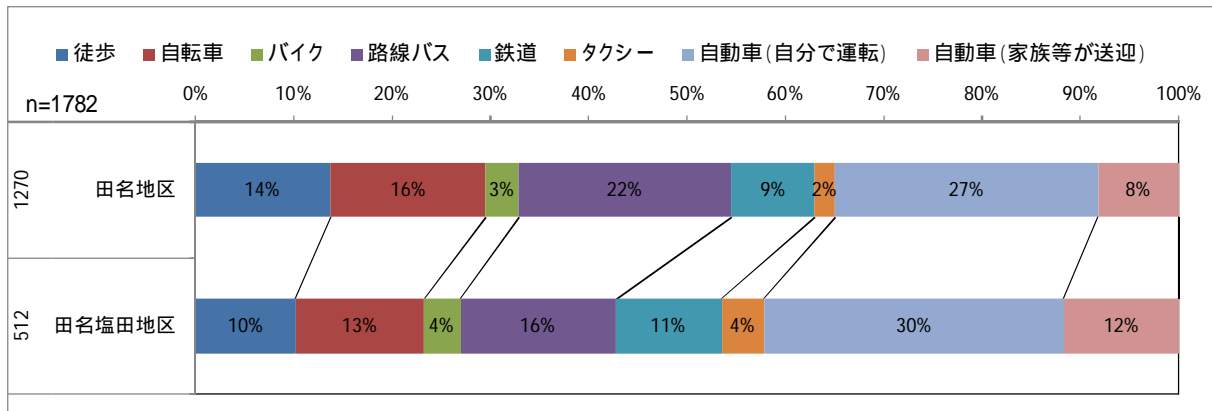


図 1-3 ふだんよく利用する交通手段(地域別)

### 主な外出目的

主な外出目的は、「通勤」が44%で最も多く、次いで「買い物や遊び」36%である。「通勤・通学・業務目的」と「私事目的」はほぼ半々である。地域別にみても主な外出目的の構成比に大きな違いはみられない。

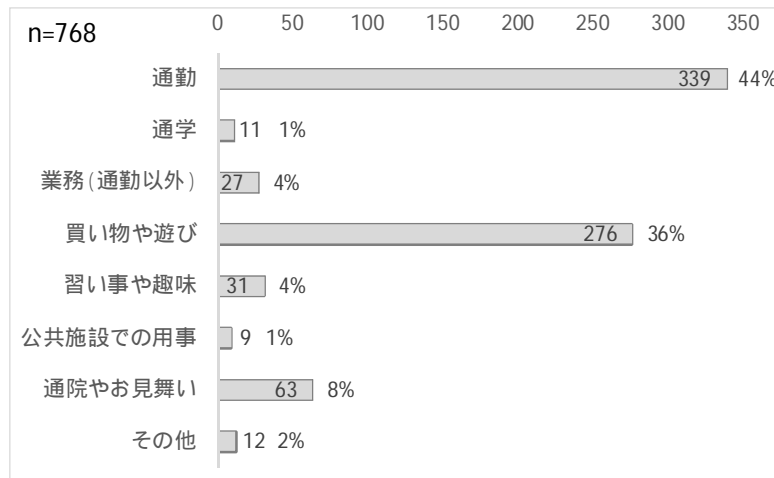


図 1-4 主な外出目的

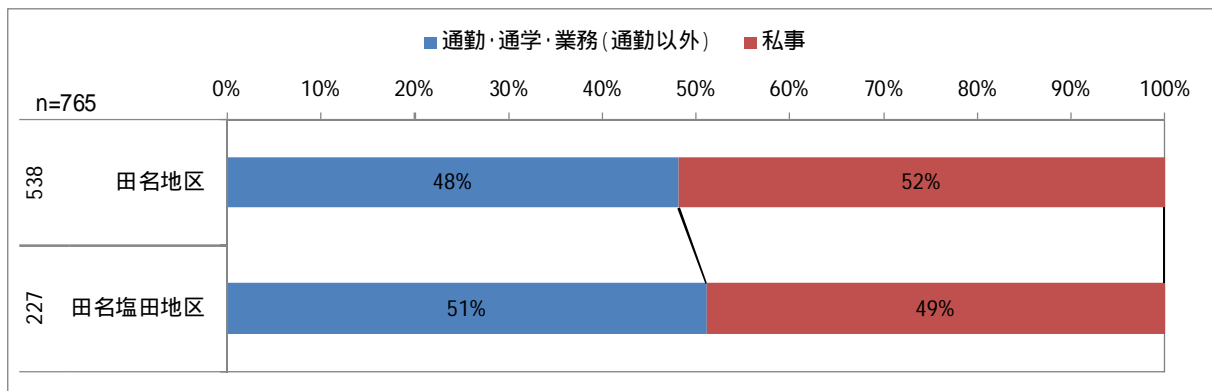


図 1-5 主な外出目的(地域別)

### 自家用車の保有状況

自家用車保有率は86%である。自動車保有台数は「1台」が53%で最も多く、次いで「2台」39%、「3台」7%となっている。

地区別にみると、田名地区の方が若干、自動車保有率が高い。

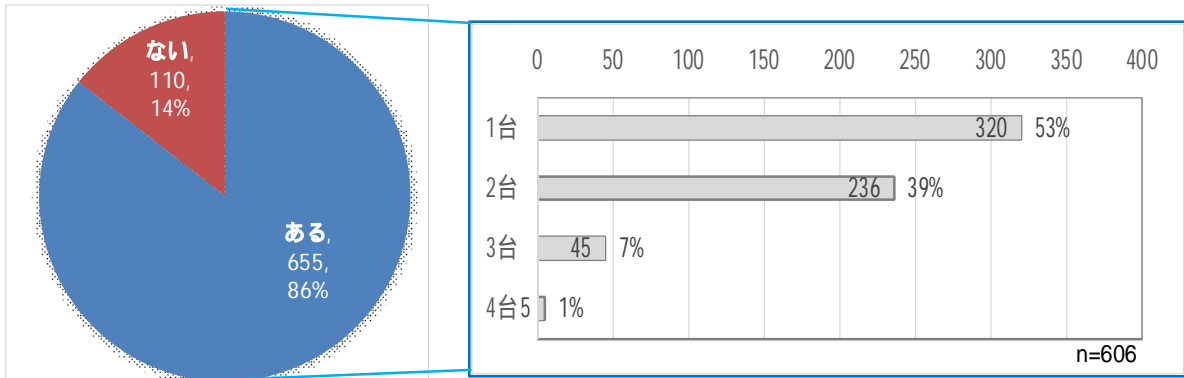


図 1-6 自家用車の保有状況

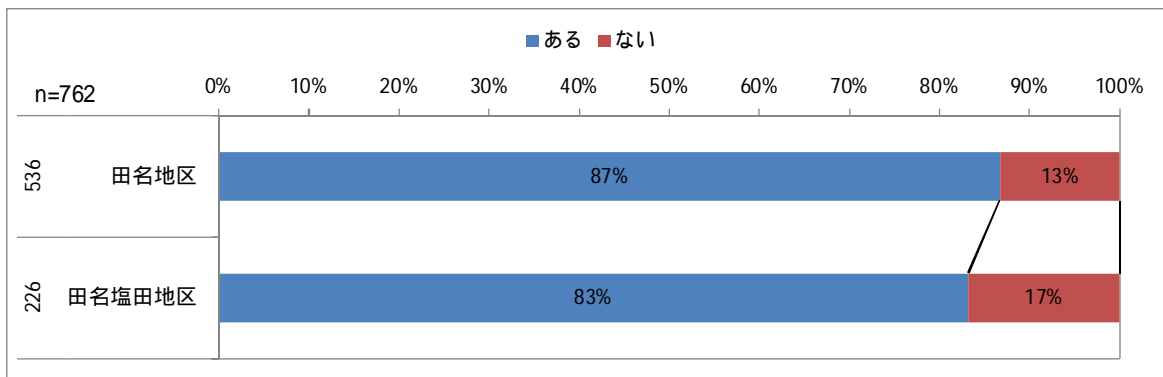


図 1-7 自家用車の保有状況(地域別)

### ふだんのバス利用頻度

ふだんのバス利用頻度は「年に数回程度」が37%で最も多く、次いで「月に数回程度」29%、「1週間に3日以上」14%の順となっている。

週1日以上バスを利用している人は23%である。

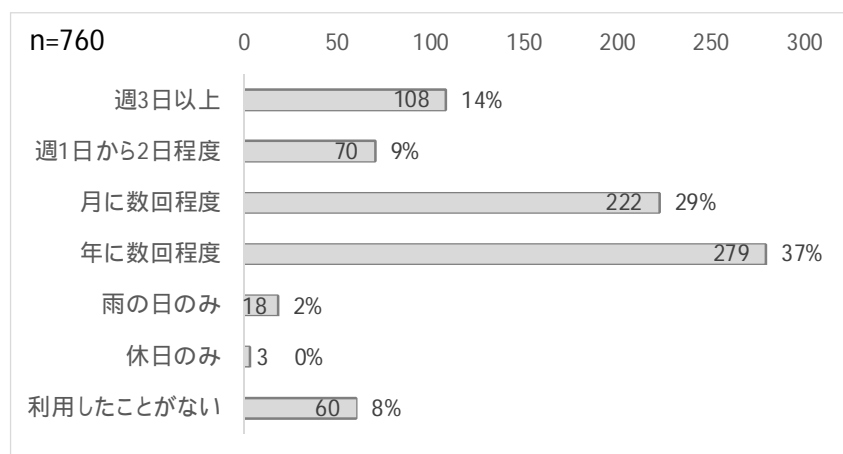


図 1-8 ふだんのバス利用頻度

地区別にみると、田名地区の方が比較的バスを利用する「週1日以上」または「月に数回程度」の割合が高い。

一方、田名塩田地区は「バスを利用したことがない」人が16%と田名地区の3倍いることがわかった。

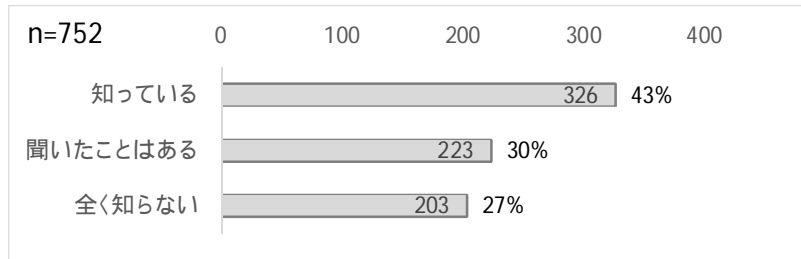


図 1-9 ふだんのバス利用頻度(地域別)

### バスの利用目的

バスの利用目的は、「買い物や遊び」をはじめ私事目的での利用が約8割を占めている。(複数回答)

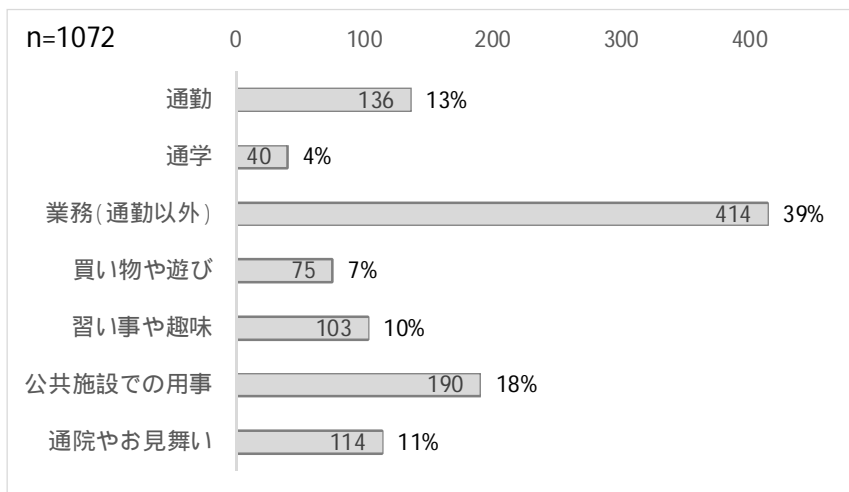


図 1-10 バスの利用目的

### バス運賃の割引制度の認知度

バス運賃には様々な割引制度(乗継割引・かなちゃん手形・ちびっ子50円・環境定期券等)があることを知っている人は43%である。

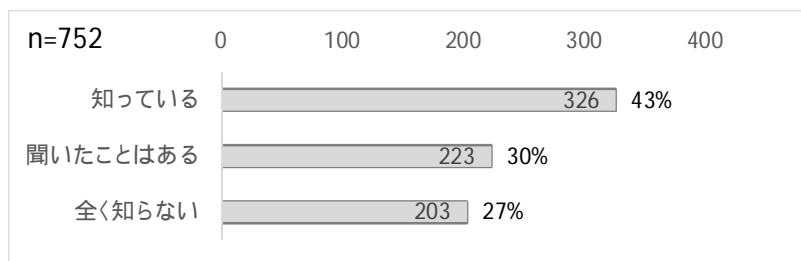


図 1-11 バス運賃の割引制度の認知度

### バスの利用促進に必要なこと

より多くの人にバスを利用してもらうために必要なことについては、「運行本数を増やす」が33%で最も多く、次いで「バス路線を増やす」19%、「定時性の確保」16%の順となっている。運行本数やバス路線の増加といった、バスネットワークの密度・面的広がりを重視していることが伺える。(最大2つまで回答)

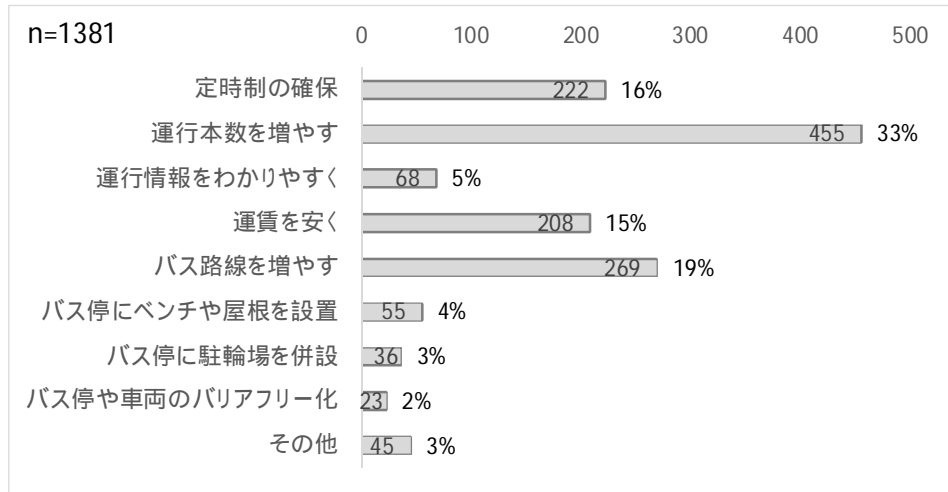


図 1-12 バスの利用促進に必要なこと

### 田名バスターミナルの利用状況

田名バスターミナルを利用したことがある人は56%である。

地区別にみると、田名地区の人は、田名塩田地区に比べて約2倍の66%がバスターミナルを利用したことがあると回答している。田名塩田地区の利用は34%にとどまっている。

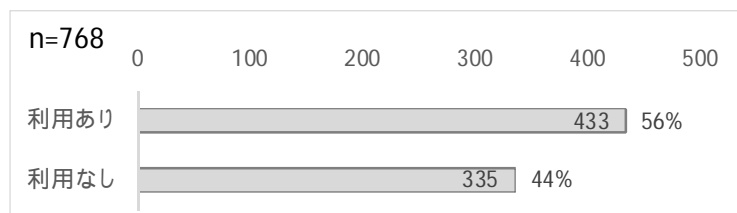


図 1-13 田名バスターミナルの利用状況

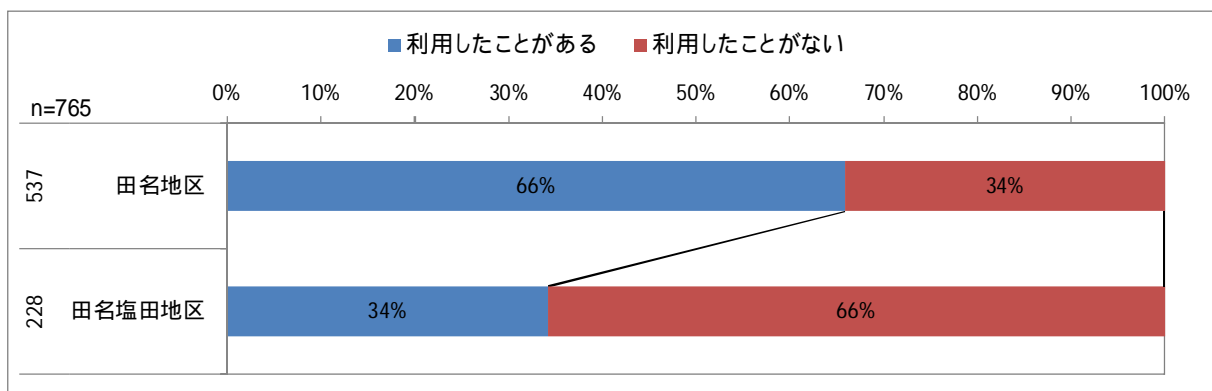


図 1-14 田名バスターミナルの利用状況(地域別)

### 田名バスターミナルに併設されている乗降場・駐輪場の認知度

田名バスターミナル周辺に駐輪場や自動車の停車スペースがあることを知っている人は63%である。

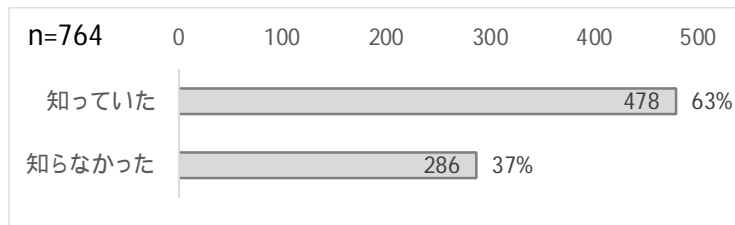


図 1-15 田名バスターミナルに併設されている乗降場・駐輪場の認知度

### 田名バスターミナルで実施しているICカード乗継割引の認知度

田名バスターミナルで「ICカード乗継割引」を実施していることを知っている人は55%である。

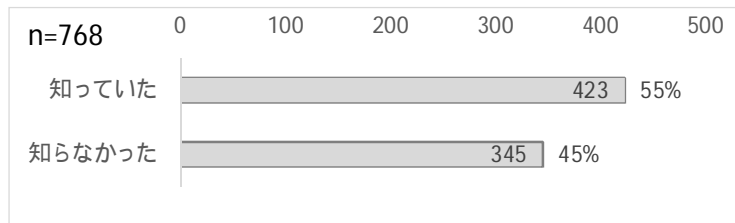


図 1-16 田名バスターミナルで実施しているICカード乗継割引の認知度

### 田名バスターミナルに期待するサービス

田名バスターミナルに期待するサービスは、「バスの増便」が41%で最も多く、次いで「乗継利便性の向上」22%、「座席指定など確実に着席できるバスの運行」16%の順となっている。「バスの利用促進に必要なこと」でも示されているとおり、バスの増便に関するニーズが高い。(複数回答)

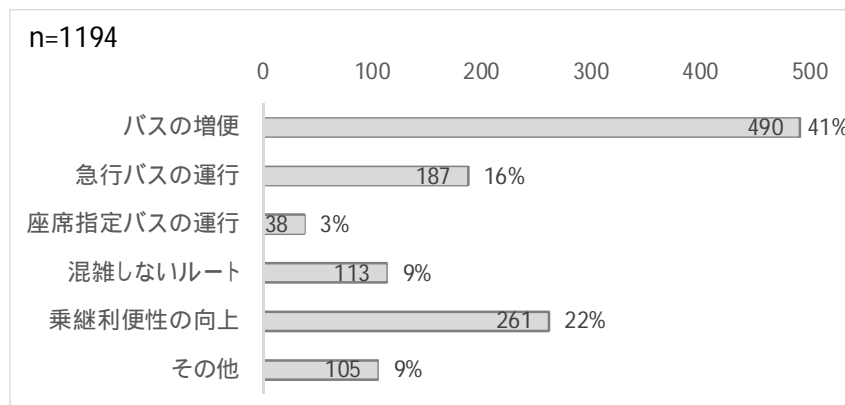


図 1-17 田名バスターミナルに期待するサービス



### 最寄りバス停までの所要時間

最寄りバス停までの所要時間は、「徒歩で3～5分程度」、「自転車で1～2分程度」が最も多い。距離に換算すると200m～300m程度である。

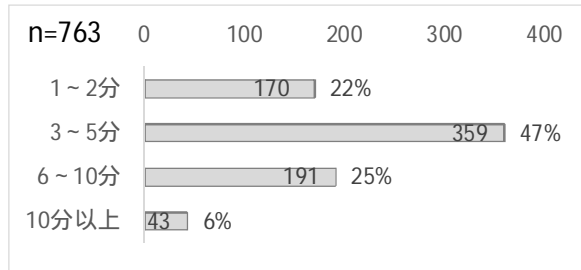


図 エラー! 指定したスタイルは使われていません。 -1 最寄りバス停までの所要時間(徒歩)

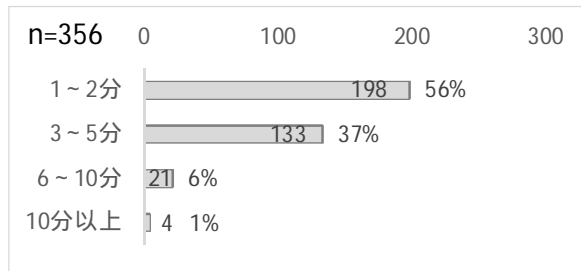


図 1-18 最寄りバス停までの所要時間(自転車)

### クルマを使わない移動手段としてできそうなこと

できるだけクルマを使わない方法としてできそうなことを聞いたところ、「クルマの代わりに、バスや電車を使う」が60%で最も多く、次いで「クルマの代わりに、自転車や徒歩にする」20%となっている。

なお、「できそうなことは何もない」と回答した人は12%である。

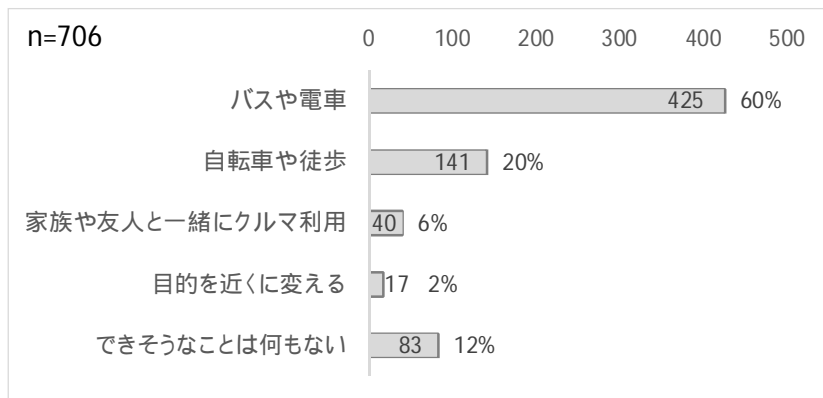


図 1-19 クルマを使わない移動手段としてできそうなこと

地区別にみると、田名地区では「クルマ以外の利用手段に転換」する割合が高く、田名塩田地区では「家族や友人の用事と一緒にクルマを使う」割合が高い。

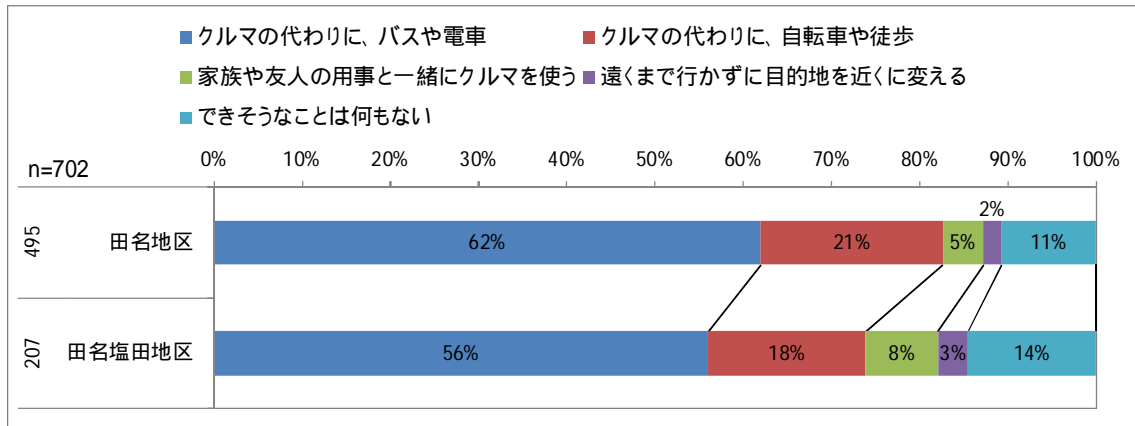


図 1-20 クルマを使わない移動手段としてできそうなこと(地域別)

### 行動プラン表の記入状況

行動プラン表を記入した人は22%である。うち、全て記入した人が20%、途中まで記入した人が2%である。

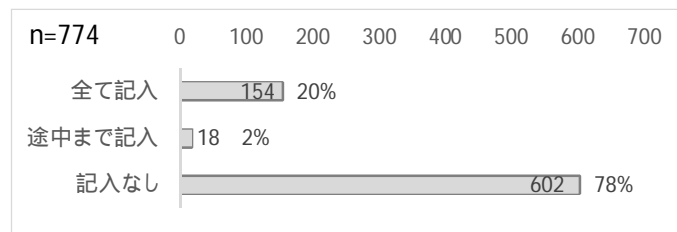


図 1-21 行動プラン表の記入状況

### バスを利用したくなる資料について(複数回答)

どのような資料があればもっとバスを利用したくなるか聞いたところ、「路線図」が26%で最も多く、次いで「時刻表」24%、「運賃表」18%の順となっている。

本市で実施しているこれまでのMMでも、対象地域に則したバスマップや時刻表、駐輪場マップ等を配布しているが、これらはユーザーのニーズに合致していることがわかった。(複数回答)

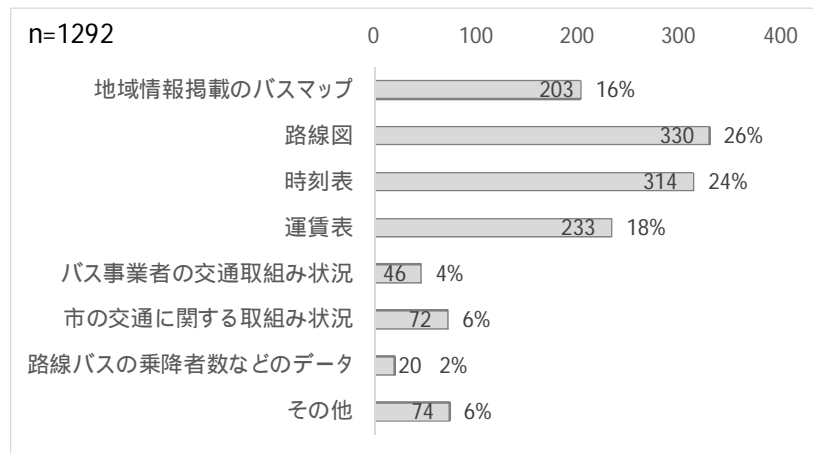


図 1-22 バスを利用したくなる資料について

### 今後のバス利用について

今後のバス利用については、「これまで以上にバスを利用する」人が9%、「これまであまりバスを利用していなかったが、今後は利用する」人が25%いる。これらの人々は、本MMにより新たにバス利用の意向が確認された層であり、MMの効果ととらえることができる。

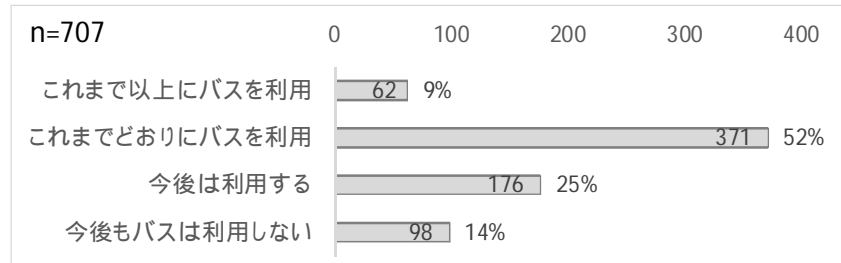


図 1-23 今後のバス利用について

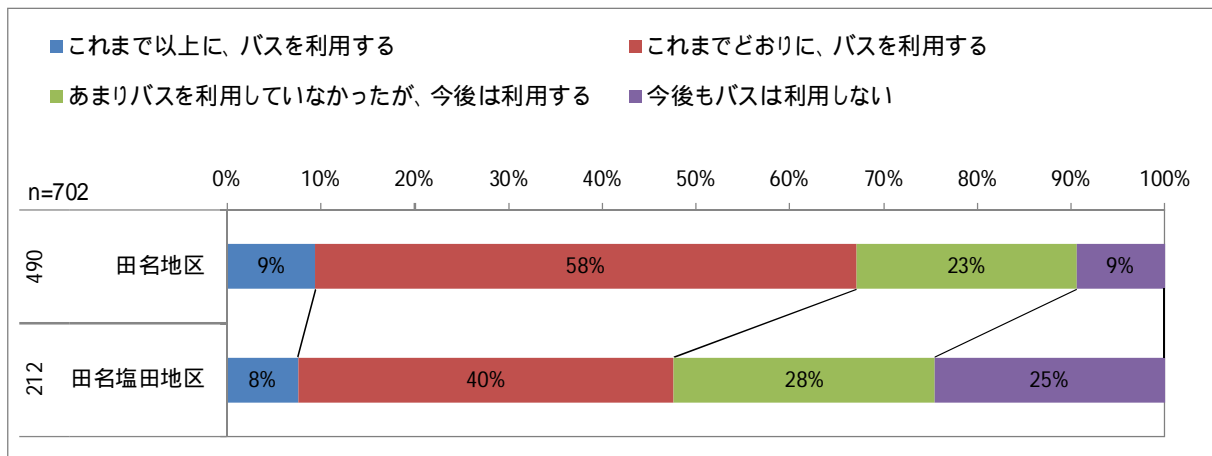


図 1-24 今後のバス利用について(地域別)

## 2) 田名バスターミナルの利用に関する分析

### ふだんのバス利用頻度

田名バスターミナル(下図ではBTと表記)を利用したことがある人となない人では、ふだんのバス利用頻度に大きな違いがあることがわかった。

バスターミナルを利用したことがある人の35%は「週1日以上」バスを利用している。

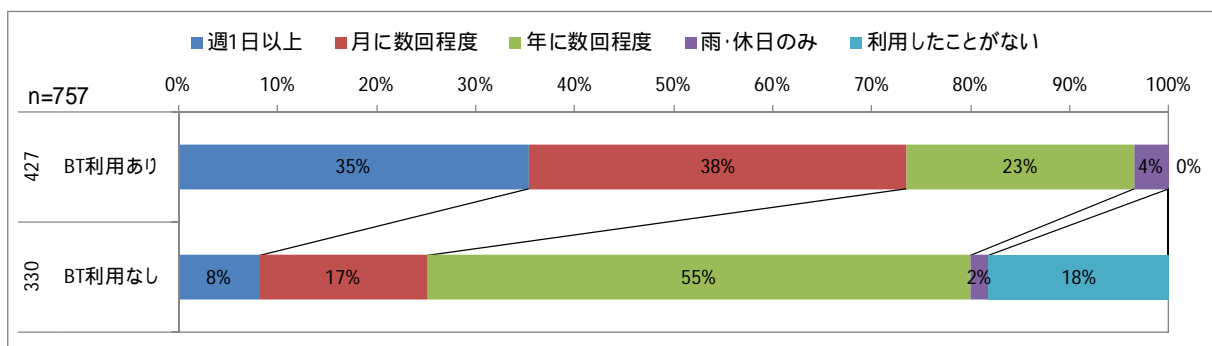


図 1-25 ふだんのバス利用頻度(BT利用別)

### 田名バスターミナルの駐車場・駐輪場、ICカード乗継割引の認知度

田名バスターミナルで実施しているサービス（ICカード割引、駐車場・駐輪場の整備）の認知度と、BT利用率、ふだんのバス利用頻度は比例していることがわかった。このことは、田名バスターミナルで実施しているサービスをより多くの人に知ってもらうことで、BTの利用率向上、ひいてはバスの利用促進につながると考えられる。

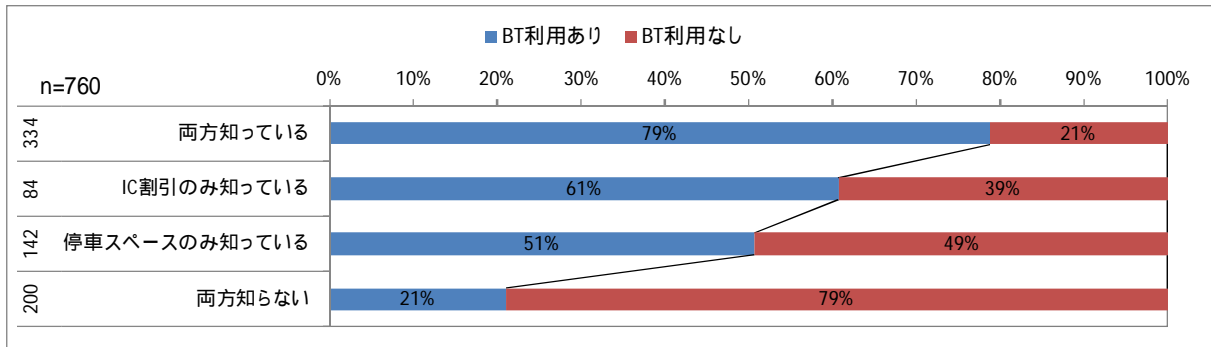


図 1-26 ICカード乗継割引の認知度とBT利用状況

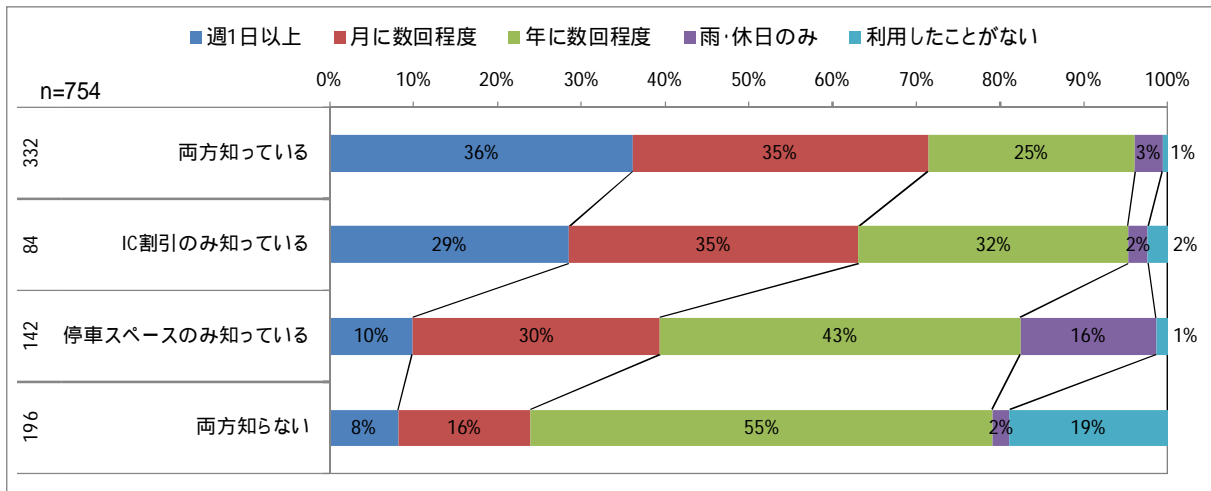


図 1-27 ICカード乗継割引の認知度とふだんのバス利用頻度

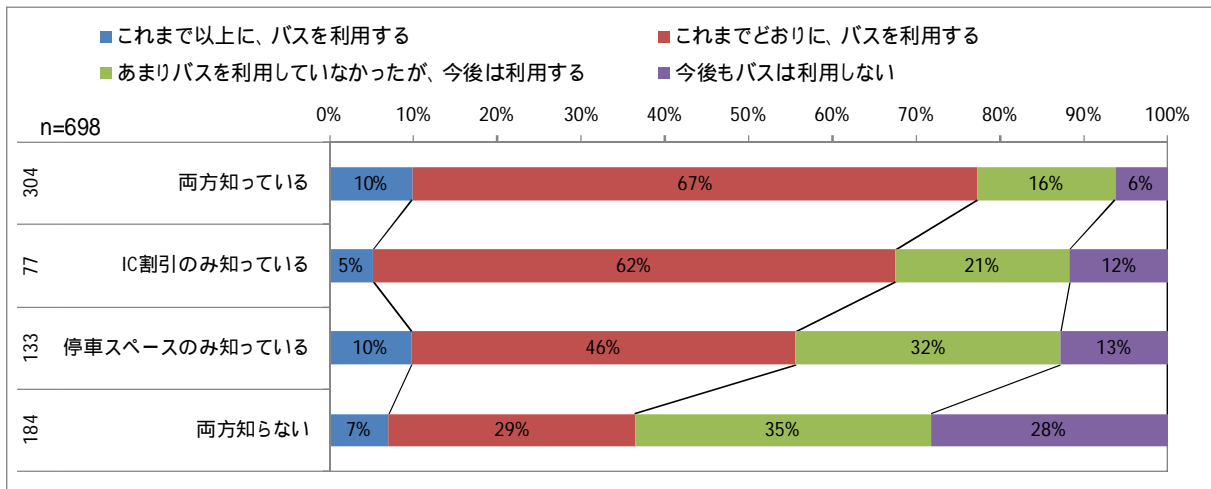


図 1-28 ICカード乗継割引の認知度と今後のバス利用について

## 田名バスターミナルに期待するサービス

田名バスターミナルに期待するサービスについては、BT利用の有無による大きな違いはみられないが、BT利用者は「バスの増便」、BT非利用者は「乗継利便性の向上」を重視していることがわかった。

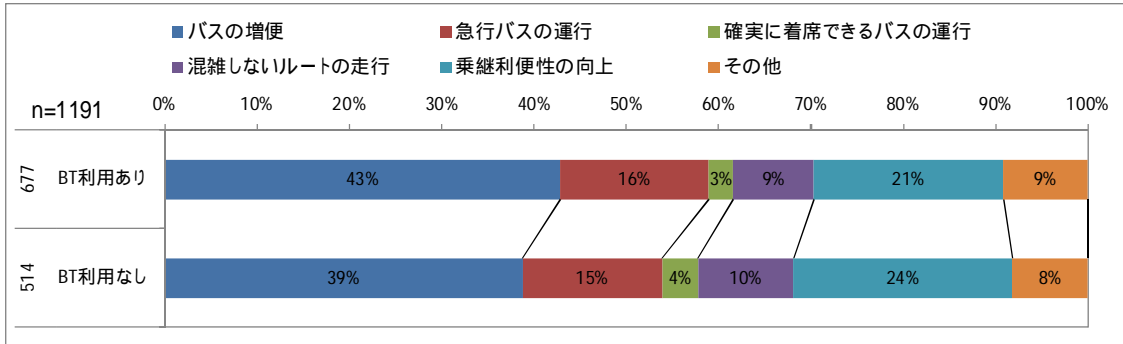


図 1-29 田名バスターミナルに期待するサービス(BT利用別)

## 今後のバス利用について

これまでBTを利用したことがない人の34%が「これまであまりバスを利用していなかったが、今後はバスを利用する」と回答している。

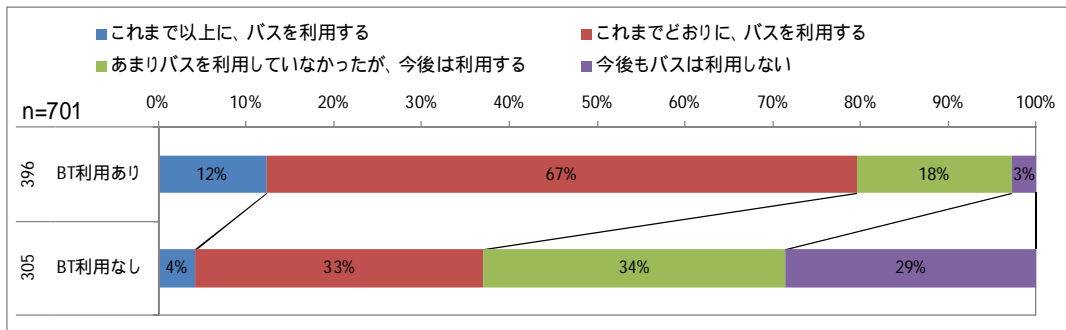


図 1-30 今後のバス利用について(BT利用別)

### 3 ) バス運賃割引制度の認知度に関する分析

#### ふだんのバス利用頻度

バス運賃の様々な割引制度（乗継割引・かなちゃん手形・ちびっ子50円・環境定期券等）を知っている人ほど、ふだんのバス利用頻度が高い傾向にあることがわかった。

田名バスターミナルで実施しているサービスと同様、バス運賃には様々な割引制度があることを周知する重要性を示唆している。

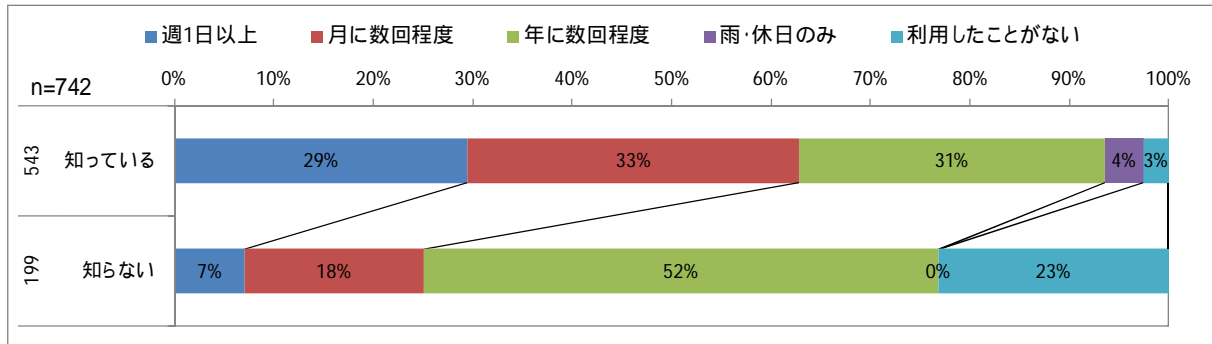


図 1-31 バス運賃割引制度の認知度とふだんのバス利用頻度

#### 今後のバス利用について

バス運賃割引制度を知らなかった人の44%が「これまであまりバスを利用していなかったが、今後はバスを利用する」と回答している。

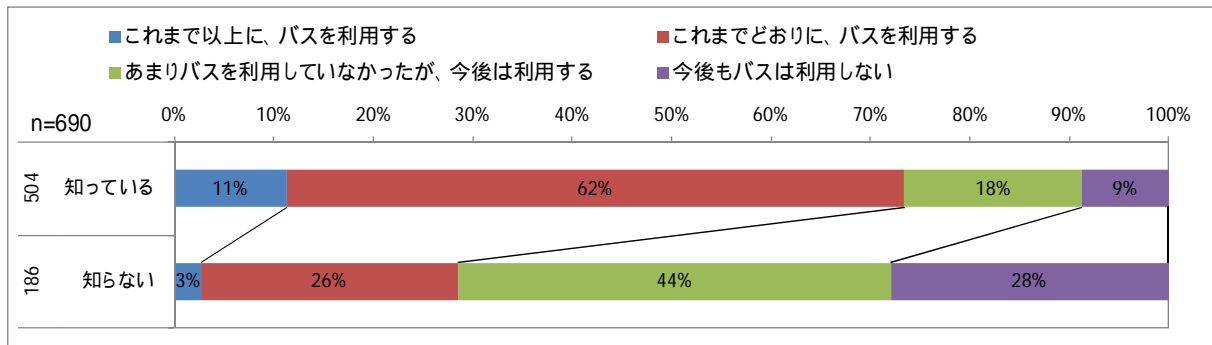


図 1-32 バス運賃割引制度の認知度と今後のバス利用について

#### 4) 行動プラン票に関する分析

行動プラン票において、できるだけクルマを使わない方法を考えた人ほど、今後のバス利用に対して高い意向を示している。

また、具体的に記入する欄に「記入があった」人ほど、「これまで以上にバスを利用する」及び「これまであまりバスを利用していなかったが、今後はバスを利用する」の割合が高い。行動プランが、バス利用の掘り起こしにつながっていることが伺える。

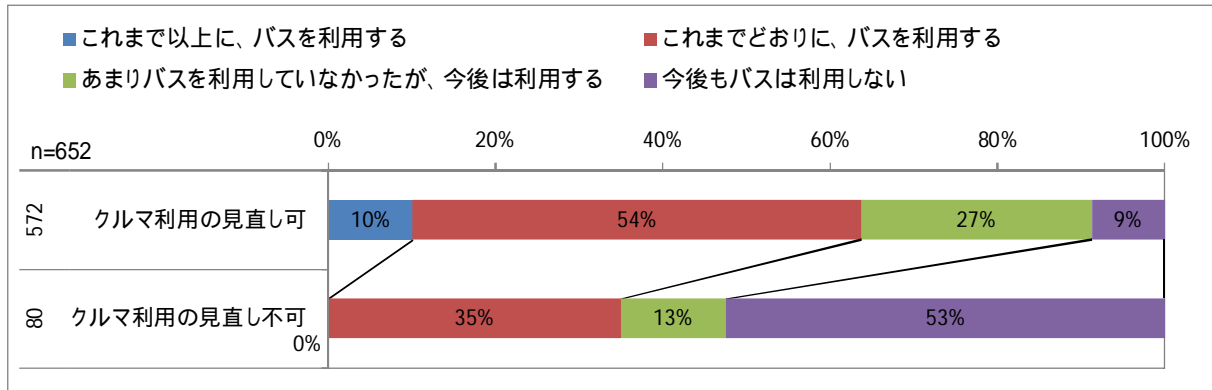


図 1-33 行動プラン票(クルマ利用の見直し)と今後のバス利用

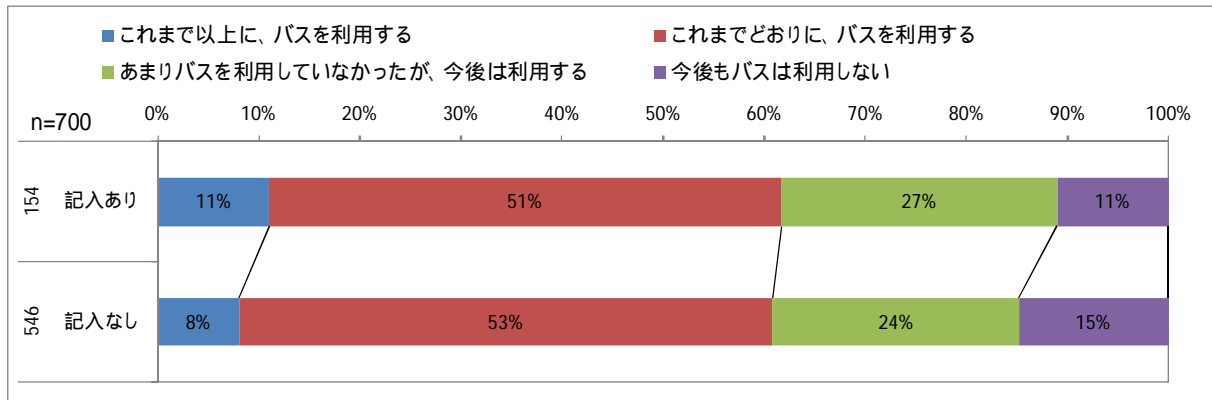


図 1-34 行動プラン票(具体的記入)と今後のバス利用